

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 470

事務事業名称		生涯学習市民センター活動委員会事業							
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	任意的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち			細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち			性質	文化・スポーツ		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	事業期間		事業開始： 2007(H19)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		決裁						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —						
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		市民とセンター職員が連携・協力して地域の特色を活かした生涯学習事業の企画・立案・実施や交流の促進を行い、市民の生涯学習活動が推進されている。						
	対象者(受益者)		生涯学習を行いたい市民						
	現状・課題		市民が学が場、その成果を活用する場、つながりの場の環境を整える必要がある。						
	事業の概要		市民とセンター職員で構成する活動委員会を、平成19年度から楠葉・さだ・御殿山・牧野・津田・菅原の各センターに、平成20年度からは南部生涯学習市民センターにも設置。地域の特色を生かした市民対象事業を実施してきた。活動委員会の構成は、市民からは①利用団体関係者、②地域活動に意欲のある者、③事業に関心のある者、④センター職員としている。指定管理者制度を導入している6施設(楠葉・津田・御殿山・菅原・さだ・牧野)においては、指定管理者から負担金20万円を支出し、活動委員として2名参加している。						
	年間の主な事務		収支報告書の確認・年度協定書の締結(年度当初)、活動委員会意見交換会の開催(年1回) 南部生涯学習市民センターにおいては、企画・運営・会議等の実施も行っている						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人 員 体 制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		0.60人	0.77人	—	—
	再任用		0.70人	0.65人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決 算 額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	正職員、再任用、任期付職員	8,342	9,766	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計	8,342	9,766	—	—		
		物件費計	200	200	—	—	200	100.0%
	歳出計		8,542	9,966	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに 平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
		市債	0	0	—	—	0	
		その他	0	0	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
	一般財源(物件費充当のみ)		200	200	—	—	200	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 活動委員会事業の件数	件	84 件	82 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

事業に市民が参加する。

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

15,000

15,000

15,000

15,000

人

実績

18,432

18,469

—

—

人

算出方法

活動委員会事業の参加者延べ人数の計測

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

市民の生涯学習活動が推進される。

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

80

80

80

80

%

実績

94.9

91.4

—

—

%

算出方法

参加者人数／募集人数×100

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、活動委員会事業の参加者及び、事業の参加率が維持されること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	前年度と比較して事業件数が減ったものの、目標を大きく上回る参加人数があった。事業への参加率も高く、魅力的な事業を提供し、市民の学習推進に寄与できた。
R7 年度	昨年度と比較し、参加率が低下している点があるが、参加者数等、各項目引き続き高い水準で推移しており市民の生涯学習活動に寄与できたと評価する。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	地域の特色を活かした事業展開に向け引き続き関係団体等と連携して、取組を推進する。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	--	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 471
事務事業名称		生涯学習事業								
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部		課：	文化生涯学習課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分	
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間	事業開始： 2005(H17)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)								
	根拠法令等	枚方市立生涯学習市民センター条例、枚方市立生涯学習市民センター条例施行規則及び決裁								
	関係附属機関等	枚方市生涯学習推進審議会								
	関係補助金等	該当なし 補助金性質： —								
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		生涯学習事業の企画・立案・実施や交流の促進を行い、市民の生涯学習活動が推進されている。							
	対象者(受益者)		生涯学習事業に興味のある市民。							
	現状・課題		市民が学ぶ場、その成果を活用する場、つながりの場の環境を整える必要がある							
	事業の概要		□「なんでも、どこでも出前塾」実施事業 各施策担当課職員が市民団体に出向き、市政について等を説明する「職員による出前講座」と生涯学習に係る情報を市HP で発信する「学びの情報ひろば」を組み合わせた事業。 □人形劇関連事業 市内の子どもたちに、夢のある良質な人形劇を身近に楽しんでもらうことを目的に、サンサン人形劇を開催するとともに、市民が結成する人形劇団の演者を育成する人形劇初級講座・人形劇中級講座を開催している。 □枚方市生涯学習推進審議会運営事務 市民や専門家の幅広い意見を聴きながら、生涯学習による市民との協働のまちづくりを進めるために、平成18年4月に枚方市生涯学習推進審議会を設置。現在、審議会は学識経験者、関係市民団体等、計10人の委員で構成している。 □朝鮮語教室 朝鮮語の学習を通じて、わが国の隣国である朝鮮半島の歴史、文化、風俗、習慣、生活、儀礼を理解し、同じ地域社会の構成員としての交流を深め、多文化共生社会を醸成するとともに、国際交流の推進を図るため、教育委員会からの補助執行で実施している。 □体験・参加型プログラムの充実 こどもたちの夢や将来の可能性を広げるため、いきいき広場における子どもの参加・体験プログラムを拡充する。							
年間の主な事務		□「なんでも、どこでも出前塾」実施事業 年度当初のリーフレット作成、通年の申請手続きに係る調整業務 □人形劇関連事業 サンサン人形劇の開催業務(周知、リハーサル・当日の運営、受付)、人形劇連絡会との調整等 □枚方市生涯学習推進審議会運営事務 年1回開催する審議会及び本審議会開催にかかる庁内委員会等運営業務 □朝鮮語教室 募集、教室運営(会場準備、受付、資料配付)等の業務 □体験・参加型プログラムの充実 市内で実施される子どもたちを対象とした多彩なメニューを集約し、放課後こども課等と連携して、枚方子どもいきいき広場等に情報提供を行う。								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)					
人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	3.48人	2.90人	—	—
	再任用	1.85人	1.65人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.87人	0.65人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	8.00人	6.00人	—	—

		(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
決算額	歳出	正職員、再任用、任期付職員	36,609	32,551	—	—	—	—
		会計年度任用職員	3,441	2,298	—	—	—	—
		特別職非常勤	0	0	—	—	—	—
		附属機関委員	76	57	—	—	—	—
		人件費計	40,126	34,906	—	—	—	—
		物件費計	150	147	—	—	450	32.7%
	歳出計		40,276	35,053	—	—	—	—
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに 平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
		市債	0	0	—	—	0	
		その他	0	0	—	—	5	
		歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	0	—	—	5	
	一般財源(物件費充当分のみ)		150	147	—	—	445	—

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 生涯学習事業を実施する。	回	187 回	193 回	一 回	一 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)								
ロジックモデル	アウトプット①	説明	各種事業に市民が参加する。					
		指標	生涯学習事業の参加者数					
				R6	R7	R8	R9	単位
			目標	3,800	3,800	3,800	3,800	人
			実績	3,817	4,845	—	—	人
			算出方法	生涯学習事業参加者数の計測				

直接アウトカム(結果による変化・便益)								
	アウトカム①	説明	市民の生涯学習活動が推進される。					
		指標	満足度の割合(生涯学習施策推進アンケートより)					
				R6	R7	R8	R9	単位
			目標	80	80	80	80	%
			実績	88	89	—	—	%
			算出方法	【「満足」「概ね満足」「普通」と回答した人数／回答者人数×100】項目:「満足」「普通」「概ね満足」「やや不満」「不満」				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
人口減少社会において、生涯学習事業の参加者数及び、生涯学習施策推進アンケートの満足度の割合が維持されること。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	参加者数及び生涯学習施策推進アンケートは目標値を上回り、市民の生涯学習活動の推進に一定の評価を得ている。
R7年度	生涯学習事業の参加者数及び満足度も昨年度に引き続き上昇しており、市民の生涯学習活動の推進に一定の評価を得ている。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)						
R8年度 取組方針		引き続き、市民の生涯学習の機会提供のため、各種事業を行い、より一層生涯学習施策の推進に取り組む。			R8年度 方向性	現状維持
参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 511
事務事業名称		総合文化芸術センター維持管理運営業務								
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	持続的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	維持管理区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち				性質	文化・スポーツ		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2021(R3)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		枚方市総合文化芸術センター条例、枚方市総合文化芸術センター条例施行規則							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		総合文化芸術センターの利用者が安全に施設を利用できるよう、適切に施設の維持管理運営を行うことにより、文化芸術活動が活性化される。							
	対象者(受益者)		総合文化芸術センターの利用者							
	現状・課題		本市の新たな文化芸術の拠点施設として、すべての利用者にとって使用しやすい施設運営を目指すとともに、集客と賑わいを創出し、地域や事業者と連携した広域な取り組みを実施していく必要がある。							
	事業の概要		指定管理者制度を導入し、多彩な文化芸術の鑑賞機会の提供、創造及び普及活動並びに文化芸術の振興を支える人材を育成、本市の文化芸術の振興を図るとともに人々の交流の促進や都市の魅力向上に寄与する拠点として、総合文化芸術センターを運営するし、利用者が安全・安心して施設を利用できるよう、適切に維持管理を行う。 指定管理者制度を導入し、令和7年度から令和11年度まで引き続きアートシティひらかた共同事業体(代表団体：サントリーパブリシティサービス㈱)が指定管理者として施設の管理・運営を行う。							
	年間の主な事務		□総合文化芸術センターの管理運営(通年) 総合文化芸術センターでの自主事業等について、事業企画書に基づき内容を確認する業務 □総合文化芸術センター施設維持管理(通年) 指定管理者から提出される月次報告及び年2回実施するモニタリングにおいての実施内容の確認							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人 員 体 制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1.66人	1.50人	—	—			
	再任用		0.00人	0.00人	—	—			
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—			
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—			
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—			
決 算 額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳 出	正職員、再任用、任期付職員	12,762	12,314	—	—			
		会計年度任用職員	0	0	—	—			
		特別職非常勤	0	0	—	—			
		附属機関委員	0	0	—	—			
		人件費計	12,762	12,314	—	—			
		物件費計	616,330	784,630	—	—	802,307	97.8%	
	歳出計		629,092	796,944	—	—			
	歳 入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	140,204	145,165	—	—	136,069		
		市債	0	0	—	—	0		
		その他	18,260	19,673	—	—	18,260		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		158,464	164,838	—	—	154,329		
	一般財源(物件費充当のみ)		457,866	619,792	—	—	647,978		

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 実施事業数	本	83 本	89 本	— 本	— 本
② 維持管理を行っている施設数	箇所	2 箇所	2 箇所	— 箇所	— 箇所

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

直接アウトカム(結果による変化・便益)

ロジックモデル

アウトプット①	説明	総合文化芸術センターが利用される					
	指標	主要施設の利用状況 (大・小・イベントホールと美術ギャラリーの利用率)					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	80	80	80	80	%
		実績	83.1	84.9	—	—	%
		算出方法	—				

アウトカム①	説明	文化芸術活動が活性化される					
	指標	満足度の割合(利用者アンケートより)					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	80	80	80	80	%
		実績	94.8	95.9	—	—	%
		算出方法	【「満足」「概ね満足」「普通」と回答した人数／回答者人数×100】 項目:「満足」「普通」「概ね満足」「やや不満」「不満」				

ロジックモデル

アウトプット②	説明	年2回行うモニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価					
	指標	モニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価の平均点					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	3	3	3	3	—
		実績	3	3	—	—	—
		算出方法	モニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価の平均をとる				

アウトカム②	説明	—					
	指標	—					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	—	—	—	—	—
		実績	—	—	—	—	—
		算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、総合文化芸術センターの利用率及び、利用者アンケートの満足度の割合が維持されること。
年2回実施する施設維持管理にかかるモニタリング評価を維持すること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	総合文化芸術センターは、本市の文化芸術の拠点施設として、「HIMARI×吉田恭子 DUOコンサート」や「東京シティ・バレエ団 白鳥の湖～大いなる愛の讃歌～」など音楽や演劇、舞踊、伝統芸能など魅力的で多彩な事業を実施した。 指定管理者制度を導入しており、定期モニタリング等により、市のマネジメントによる適切な管理運営を行った。また、指定管理者の指定期間が令和6年度末で満了となることから、指定管理者選定委員会に諮問し、その答申を受けて、新たな指定管理者の指定を行った。
R7年度	総合文化芸術センターは、指定管理者制度を導入しており、定期モニタリング等により、市のマネジメントによる適切な管理運営を行った。 また、本市の文化芸術の拠点施設として、「読売日本交響楽団 枚方公演 原田慶太楼×HIMARI」をはじめとした音楽や演劇、舞踊、伝統芸能など魅力的で多彩な事業を実施し、施設の利用率及び利用者満足度についても目標値を達成している。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	指定管理者制度による運営を行う施設における業務の執行状況等について、モニタリングなどを通じた適切な把握・指導・監督に努めるとともに、質の高い公演や市民が参加できる機会を創出する事業等、文化芸術事業を進めていく。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	---	-------------	------

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 544

事務事業名称		学園都市ひらかた推進協議会事業(文化生涯学習課)							
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	任意的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち			細区分	任意的区分		
		施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち			性質	文化・スポーツ		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	事業期間		事業開始： 2005(H17)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		決裁						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —						
	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		市内5大学との連携・協力により特色ある各大学の専門的な知識・情報を生かして学習できる講座を市民に提供することで、多様化・高度化する市民の学習意欲に応えることができているとともに、それが生涯学習の推進・生きがいの増進につながっている。						
詳細項目	対象者(受益者)		生涯学習を行いたい市民						
	現状・課題		市民が学が場、その成果を活用する場、つながりの場の環境を整える必要がある。						
	事業の概要		学園都市ひらかた推進協議会事業の一環として、市と大学が連携し、市民向け講座「ひらかた市民大学」「子ども大学探検隊」を開催。「ひらかた市民大学」については専門的な知識・情報を提供する講座を市内5大学においてそれぞれ1講座実施する。「子ども大学探検隊」については学園都市ひらかた推進協議会事業の一環として、市内大学の施設・設備やクラブ活動等への参加体験をする「子ども大学探検隊」事業を実施する。小学生(高学年)対象。市内5大学のうち毎年希望する大学において実施。						
	年間の主な事務		市内5大学と「ひらかた市民大学」「子ども大学探検隊」の日程調整等を行い、各開催講座の募集及び運営補助業務を行う。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人 員 体 制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		0.57人	0.44人	—	—
	再任用		0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決 算 額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳 出	正職員、再任用、任期付職員	4,382	3,612	—	—		
		会計年度任用職員	0	0	—	—		
		特別職非常勤	0	0	—	—		
		附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計	4,382	3,612	—	—		
		物件費計	0	0	—	—	0	0.0%
	歳出計		4,382	3,612	—	—		
	歳 入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人員費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0	
		市債	0	0	—	—	0	
		その他	0	0	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0	
	一般財源(物件費充当のみ)		0	0	—	—	0	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 「ひらかた市民大学」の開催	件	5 件	5 件	— 件	— 件
② 「子ども大学探検隊」の開催	件	5 件	5 件	— 件	— 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

直接アウトカム(結果による変化・便益)

ロジックモデル

アウトプット①	説明	「ひらかた市民大学」事業に市民が参加する。					
	指標	「ひらかた市民大学」の参加者数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	200	200	200	200	人
		実績	269	230	—	—	人
	算出方法	「ひらかた市民大学」の参加者数の計測					

アウトカム①	説明	生涯学習の推進・生きがいの増進につながる。					
	指標	満足度(アンケートにより) アンケートにより満足であったと回答した割合。					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	80	80	80	80	%
		実績	98	99	—	—	%
	算出方法	「満足」「やや満足」「普通」と回答した人数/回答者人数×100 項目:「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の項目で「満足」「やや満足」					

ロジックモデル

アウトプット②	説明	「子ども大学探検隊」事業に子どもが参加する。					
	指標	「子ども大学探検隊」の参加者数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	250	250	250	250	人
		実績	217	201	—	—	人
	算出方法	「子ども大学探検隊」の参加者数					

アウトカム②	説明	生涯学習の推進・生きがいの増進につながる。					
	指標	満足度(アンケートにより) アンケートにより満足であったと回答した割合。					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	80	80	80	80	%
		実績	100	99	—	—	%
	算出方法	「満足」「やや満足」「普通」と回答した人数/回答者人数×100 項目:「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の項目で「満足」「やや満足」					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、「ひらかた市民大学」と「子ども大学探検隊」の参加者数及び、各アンケートの満足度の割合が維持されること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	市民大学・子ども大学探検隊ともに、昨年度に引き続き5大学すべてで実施することができた。 子ども大学探検隊の参加者数が目標に及ばなかったものの、市民大学では目標以上の参加者があり、また、両事業とも高い満足度を得られた。
R7年度	子ども大学探検隊の参加者数が目標に及ばなかったものの、各大学から設定された定員を大きく上回る申込があり、盛況であった。また、ひらかた市民大学については参加者数は目標に到達しており、満足度については、両事業とも目標を超える高い数値を得られた。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	今後も継続して事業の展開を行い、大学側と連携して市民に向けて専門的な知識・情報を提供する講座、子ども向けの参加・体験型の講座等を提供していく予定である。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	--	-------------	------

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	▶ 現状維持	▶ 現状維持	▶ —	▶ —

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 710

事務事業名称		生涯学習市民センター維持管理運営事業							
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	任意的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち			細区分	任意の区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち			性質	文化・スポーツ		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
						—	—		
	事業期間		事業開始： 2006(H18)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		枚方市立生涯学習市民センター条例、枚方市立生涯学習市民センター条例施行規則及び決裁、建築基準法、消防法、建築物における衛生的環境の確保に関する法律、電気事業法						
	関係附属機関等		該当なし						
詳細項目	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —						
	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		生涯学習事業の企画・立案・実施や交流の促進を行い、市民の生涯学習活動が推進されている。 生涯学習施設の利用者が、安全・快適に利用ができています。						
	対象者(受益者)		生涯学習市民センター利用者						
	現状・課題		市民が学ぶ場、その成果を活用する場、つながりの場の環境を整える必要がある。 生涯学習施設の利用者が、安全で快適に利用できるように施設設備の修繕や保守点検を実施する必要がある。						
	事業の概要		□生涯学習施設の運営 生涯学習市民センターの利用運営を行い、様々な生涯学習事業を実施している。 □生涯学習施設管理 市内の生涯学習市民センター施設の清掃、空調設備・防災設備・電気設備・自家発電・エレベーター等の保守点検、夜間・休日の警備等の委託。施設の老朽化等に伴う修繕改修等の実施。 ・楠葉生涯学習市民センター(枚方市楠葉並木) / サンブラザ生涯学習市民センター(枚方市岡東町)※令和6年8月31日閉館 ・さだ生涯学習市民センター(枚方市北中振) / 御殿山生涯学習美術センター(枚方市御殿山町) / 牧野生涯学習市民センター(枚方市宇山町) / 牧野生涯学習市民センター牧野北分館(枚方市牧野北町) / 津田生涯学習市民センター(枚方市津田北町) / 菅原生涯学習市民センター(枚方市長尾元町) / 南部生涯学習市民センター(枚方市香里ヶ丘) / 生涯学習情報プラザ(枚方市車塚) / 生涯学習交流センター(枚方市岡東町)※令和6年9月17日開館						
	年間の主な事務		□生涯学習施設の運営・管理 指定管理館においては、各生涯学習市民センターを活用して行う自主事業等について、事業企画書に基づき内容を確認等を行う業務(通年)、事業計画書に基づきモニタリングを行う業務(年2回)。 直営館においては、自主事業の実施及び諸室等の貸出業務ならびに建物・設備等の維持管理業務を実施。						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員		2.58人	2.05人	—	—
	再任用		0.45人	0.50人	—	—
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員		3.95人	2.86人	—	—
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—

決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	22,232	19,478	—	—	
			会計年度任用職員	12,086	10,880	—	—	
			特別職非常勤	0	0	—	—	
			附属機関委員	0	0	—	—	
		人件費計		34,318	30,358	—	—	
		物件費計		707,420	666,998	—	—	703,054 94.9%
	歳出計		741,738	697,356	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに 平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	44,749	45,988	—	—	46,290	
		市債	68,000	47,200	—	—	56,000	
		その他	10,984	151,944	—	—	202,707	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		123,733	245,132	—	—	304,997	
	一般財源(物件費充当分のみ)		583,687	421,866	—	—	398,057	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 各施設で行っている生涯学習事業数	件	162 件	188 件	— 件	— 件
② 維持管理を行っている施設数	箇所	10 箇所	10 箇所	— 箇所	— 箇所

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

各種事業に市民が参加する。

指標

生涯学習事業の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	4,900	4,900	4,900	4,900	人
実績	8,929	8,059	—	—	人

算出方法

生涯学習事業の参加者数の計測

ロジックモデル

アウトプット②

説明

指定管理施設において年2回各施設毎に行うモニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価

指標

各施設のモニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価の平均点

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	3	3	3	3	—
実績	3	3	—	—	—

算出方法

各施設のモニタリング評価内の施設維持管理にかかる評価の平均をとる

ロジックモデル

アウトプット③

説明

直営施設において行う保守点検予定回数と実績回数の割合

指標

直営施設において行う保守点検予定回数と実績回数の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	27	29	27	27	%
実績	27	29	—	—	%

算出方法

予定回数における実績回数の割合を算出

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

市民の生涯学習活動が推進される。

指標

満足度の割合(生涯学習施策推進アンケートより)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	88	89	—	—	%

算出方法

【「満足」「概ね満足」「普通」と回答した人数/回答者人数×100】 項目:「満足」「普通」「概ね満足」「やや不満」「不満」

アウトカム②

説明

—

指標

—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—

算出方法

—

アウトカム③

説明

—

指標

—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—

算出方法

—

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、生涯学習事業の参加者数及び、生涯学習施策推進アンケートの満足度の割合が維持されること。
指定管理施設において年2回実施する施設維持管理にかかるモニタリング評価及び、直営施設において予定している予定回数における実績回数が維持されること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	生涯学習事業の参加者数については、9月の生涯学習交流センターのオープンにあたり開催したオープニングイベントに2128人の参加者があり、また、他センターも含め多くの参加者があったため、目標を大きく超える結果となった。満足度についても目標を達成しており、今後も満足度の向上に努める。 施設の維持管理については、指定管理館においては年2回のモニタリングにて適正に管理されていることを確認したとともに、直営館においても計画どおりに保守点検が実施され、適正な維持管理ができた。
-------	---

R7 年度	生涯学習事業の参加者数については、昨年度に引き続き目標を大きく超える結果となった。満足度についても目標を達成した。 施設の維持管理については、指定管理館においては年2回のモニタリングにて適正に管理されていることを確認したとともに、直営館においても計画どおりに保守点検が実施され、適正な維持管理ができた。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	引き続き、市民の生涯学習の機会提供のため、各種事業を行うとともに、指定管理館においては適切な施設運営がなされているかの確認を行う。改修・修繕は、市有建築物保全計画に即して実施しており、施設の現状を踏まえ、計画的に補修等を行っていく。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	--	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	▶ 現状維持	▶ 現状維持	▶ —	▶ —

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調書番号 715	
事務事業名称			市民企画イベント促進事業								
担当部署(R8年度機構)			部：観光にぎわい部		課：文化生涯学習課		区分		任意の事業		
基本 項目	総合 計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	文化・スポーツ		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度 —	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 2006(H18)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)								
	根拠法令等		枚方市市民企画イベント促進事業実施要綱								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		市民企画イベント促進事業補助金						補助金性質： 事業費補助		
詳細 項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		市民(団体)が、企画実施した文化芸術事業に多くの市民が参加できている。								
	対象者(受益者)		市内において、文化芸術の振興に資すると認められる事業を実施しようとする者								
	現状・課題		資金不足、広報力の不足、会場確保の確保が困難であるということ。								
	事業の概要		市内において、文化芸術の振興に資すると認められる事業を実施しようとする者に対して、事業に要する経費に対する補助等の支援を行う。								
	年間の主な事務		・申請受付(例年3月) ・審査会開催(例年4月) ・実施事業への補助金交付								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人 員 体 制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		0.18人	0.50人	—	—			
	再任用		0.00人	0.00人	—	—			
	任期付職員		0.00人	0.00人	—	—			
	会計年度任用職員		0.00人	0.00人	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	0.00人	—	—			
	附属機関委員		0.00人	0.00人	—	—			
決 算 額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳 出	正職員、再任用、任期付職員	1,384	4,105	—	—			
		会計年度任用職員	0	0	—	—			
		特別職非常勤	0	0	—	—			
		附属機関委員	0	0	—	—			
		人件費計	1,384	4,105	—	—			
		物件費計	701	669	—	—	919	72.8%	
	歳出計		2,085	4,774	—	—			
	歳 入	国庫支出金	0	0	—	—	0	※(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人員費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0		
		市債	0	0	—	—	0		
		その他	0	0	—	—	0		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	0	—	—	0		
	一般財源(物件費充当のみ)		701	669	—	—	919		

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市民企画イベント促進事業補助金を交付する。	団体	4 団体	4 団体	— 団体	— 団体

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)							
アウトプット①	説明	市民の手によって文化芸術の振興につながる事業が実施される。					
	指標	支援決定団体が実施した事業数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	3	3	3	3	事業
		実績	4	4	—	—	事業
		算出方法	—				

直接アウトカム(結果による変化・便益)							
アウトカム①	説明	文化芸術事業に多くの市民が参加している。					
	指標	各支援事業に対する入場者率					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	70	70	70	70	%
		実績	78	54.9	—	—	%
		算出方法	支援決定団体が実施する各事業の目標入場数に対する平均入場者率				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、支援決定団体が実施した事業数及び、各事業の参加者数が維持されること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	令和6年度については、4団体の応募があり、審査委員会の評価に基づき、4団体に対して施設確保、広報支援、資金補助を行った結果、4団体のイベントのうち2団体が目標入場者率70%を下回ったが、4団体の平均入場者率は78%となり、目標値を超えている。
R7 年度	令和7年度については、8団体の応募があり、審査委員会の評価に基づき、4団体に対して施設確保、広報支援、資金補助を行った結果、4団体のイベントのうち2団体が目標入場者率70%を上回ったが、4団体の平均入場者率は54.9%となり目標値に届かなかった。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	応募団体が増加傾向にあることから、これまでの取り組みを継続する。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	----------------------------------	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 721
事務事業名称		文化芸術事業								
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	任意的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち			細区分	任意的区分			
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち			性質	文化・スポーツ			
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2019(R1)年度 ～ 事業終了予定： 2023(R5)年度							
	根拠法令等		決裁							
	関係附属機関等		文化芸術振興審議会							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		枚方市内で文化芸術を鑑賞する機会を求めている市民や文化芸術活動を行っている市民・市民団体等に鑑賞の場や発表の場を提供することにより、市民の文化芸術に対する満足度が向上している							
	対象者(受益者)		枚方市内で文化芸術を鑑賞する機会を求めている市民や文化芸術活動を行っている市民・市民団体等							
	現状・課題		枚方市内で文化芸術の鑑賞機会がない、または発表の場がない							
	事業の概要		総合文化芸術センターなどを活用し、文化芸術に触れるきっかけづくりとなるような魅力的な事業を数多く展開していくことで、文化芸術への興味や関心を育て、文化芸術の裾野を広げることを重点施策としている。							
	年間の主な事務		☐ 小学校アウトリーチ(通年) ☐ 中学校オーケストラ鑑賞会(例年2月) ☐ 枚方ジュニア・ウインド・オーケストラ(通年) ☐ コミュニケーション授業(通年) ☐ 美術事業にかかる市主催等事業(2カ月に1度の市所蔵作品展示替業務、主催事業等運営業務等) ☐ 文化芸術振興審議会運営事務(例年々1回) ☐ 枚方市美術推進委員協議会運営事務(例年々3回)							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)			R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績		
	正職員			1.94人	1.59人	—	—		
	再任用			0.00人	0.00人	—	—		
	任期付職員			0.00人	0.00人	—	—		
	会計年度任用職員			0.80人	0.80人	—	—		
	特別職非常勤			0.00人	4.00人	—	—		
	附属機関委員			10.00人	7.00人	—	—		
決算額	(千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	14,915	13,052	—	—		
			会計年度任用職員	3,232	4,002	—	—		
			特別職非常勤	0	114	—	—		
			附属機関委員	57	67	—	—		
		人件費計		18,204	17,235	—	—		
		物件費計		40,251	31,236	—	—	31,840	98.1%
	歳出計			58,455	48,471	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金		0	0	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	0	—	—	0	
		市債		0	0	—	—	0	
		その他		5,711	31,234	—	—	31,734	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)			5,711	31,234	—	—	31,734	
	一般財源(物件費充当分のみ)			34,540	2	—	—	106	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 小学校アウトリーチの実施校数	校	26 校	28 校	— 校	— 校
② 中学校オーケストラ鑑賞会の公演回数	回	3 回	3 回	— 回	— 回
③ 枚方ジュニア・ウインド・オーケストラの実施回数	回	12 回	11 回	— 回	— 回
④ コミュニケーション授業の実施校数	校	15 校	14 校	— 校	— 校

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

事業の実施により、身近に文化芸術に触れる機会が作られる。

指標

対象事業の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	7,500	7,500	7,500	7,500	人
実績	7,888	7,894	—	—	人

算出方法

アウトリーチ・コミュニケーション授業の参加者数、中学校オーケストラ・ジュニアの入場者数の合計

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

文化芸術に対する市民の関心及び理解が深まる。

指標

参加者の満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	96.3	95.3	—	—	%

算出方法

【「満足」「概ね満足」「普通」と回答した人数／回答者人数×100
項目:「満足」「普通」「概ね満足」「やや不満」「不満」

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

人口減少社会において、対象事業の参加者数及び、参加者アンケートの満足度の割合が維持されること。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	小学校6年生を対象としたコミュニケーション授業や小学校5・6年生を対象とした小学校アウトリーチ事業、中学校1年生を対象とした中学校オーケストラ鑑賞事業、中高生を対象としたジュニアブラスバンド事業などを実施し、子どもが文化芸術に触れる機会の充実を図った。また、かつて御殿山生涯学習美術センターの敷地にあった大阪美術学校の開校100年を記念した企画展の実施や図録作成などに取り組んだ。充実した鑑賞の場や発表の場を提供したことで、さらなる文化芸術の振興につながったと考える。
R7年度	小学校6年生を対象としたコミュニケーション授業や小学校5・6年生を対象とした小学校アウトリーチ事業、中学校1年生を対象とした中学校オーケストラ鑑賞事業、中高生を対象としたジュニアブラスバンド事業は教育委員会と連携して実施したもので、参加者及び満足度について、目標値を達成しており、鑑賞の場や発表の場を提供することで、子どもが文化芸術に触れる機会の充実につながったと考える。今後も、現状の数値を維持・向上に努める。
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度取組方針	子どもたちが質の高い文化芸術に触れることができるよう、教育委員会と連携して事業を実施していく。	R8年度方向性	現状維持
----------	---	---------	------

参考	方向性の経過	R6年度方向性 (R5実績測定)	R7年度方向性 (R6実績測定)	R8年度方向性 (R7実績測定)	R9年度方向性 (R8実績測定)	R10年度方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	現状維持	—	—

令和7年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 914
事務事業名称		文化生涯学習課運営事務								
担当部署(R8年度機構)		部：	観光にぎわい部	課：	文化生涯学習課	区分	行政運営事業			
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分		
		施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 不明 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		決裁							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		事務を滞りなく処理できている。							
	対象者(受益者)		文化生涯学習課職員							
	現状・課題		直営施設と指定管理施設があり、それぞれの管理運営を理解したうえで事務を執行する必要がある。							
	事業の概要		課の運営業務							
	年間の主な事務		文化芸術事業全般に関わる事務・庶務事務							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)					
人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	2.05人	1.95人	—	—
	再任用	0.00人	0.00人	—	—
	任期付職員	0.00人	0.00人	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	0.00人	—	—
	特別職非常勤	0.00人	0.00人	—	—
	附属機関委員	0.00人	0.00人	—	—

			(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R7予算額(参考)	予算執行率(参考)
決算額	歳出	内 訳	正職員、再任用、任期付職員	15,760	16,008	—	—		
			会計年度任用職員	0	0	—	—		
			特別職非常勤	0	0	—	—		
			附属機関委員	0	0	—	—		
		人件費計		15,760	16,008	—	—		
		物件費計		298	236	—	—	1,268	18.6%
	歳出計			16,058	16,244	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	0	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人員費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	0	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	0	—	—	0		
市債		0	0	—	—	0			
その他		2	0	—	—	5			
歳入計(物件費に充当される特定財源)			2	0	—	—	5		
一般財源(物件費充当のみ)			296	236	—	—	1,263		

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① —					

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)								
ロ ジ ック モ デ ル	ア ウ ト プ ツ ト ①	説明	—					
		指 標	—					
				R6	R7	R8	R9	単位
			目標					—
			実績					—
		算出 方法	—					

直接アウトカム(結果による変化・便益)							
ア ウ ト カ ム ①	指 標	説明	—				
		—					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標					—
		実績					—
		算出 方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	課の運営に必要な事務について、適切に処理した。
R7 年度	課の運営に必要な事務について、適切に処理した。
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R8年度 取組方針	今後も課の運営が円滑に行われるよう、適切に事務を処理していく。	R8年度 方向性	現状維持
--------------	---------------------------------	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	▶ 現状維持	▶ 現状維持	▶ —	▶ —